

平成27年度 大気の現況

— 浮遊粒子状物質 —

浮遊粒子状物質（SPM = Suspended Particulate Matter）は、大気中に浮遊する粒子状物質で、粒径が $10\mu\text{m}$ （ $1\mu\text{m}$ は 1mm の千分の1）以下のものをいいます。小さく軽いため、すぐには落下せずに大気中に比較的長い間、浮遊しています。呼吸器系に沈着することで健康に影響を及ぼします。

浮遊粒子状物質は、工場や事業場、自動車などが燃料を燃焼したときに発生する人為的発生源によるものと、風で舞い上がる土壌粒子など自然発生源によるものがあります。

本市では、塩谷、勝納、銭函、駅前交差点の4測定局で常時監視しており、全地点で環境基準を達成しています。

環境基準

1時間値の日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、
1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。

浮遊粒子状物質環境基準達成状況（平成27年度）

測定局	種別	用途地域	長期的評価	日平均値の年間2%除外値
塩谷測定局	一般環境	準工	○	$0.031\text{mg}/\text{m}^3$
勝納測定局	一般環境	1住	○	$0.030\text{mg}/\text{m}^3$
銭函測定局	一般環境	1住	○	$0.029\text{mg}/\text{m}^3$
駅前交差点測定局	自動車排出ガス	商業	○	$0.035\text{mg}/\text{m}^3$

○：環境基準達成 ×：環境基準非達成

浮遊粒子状物質の年間値（平成27年度）

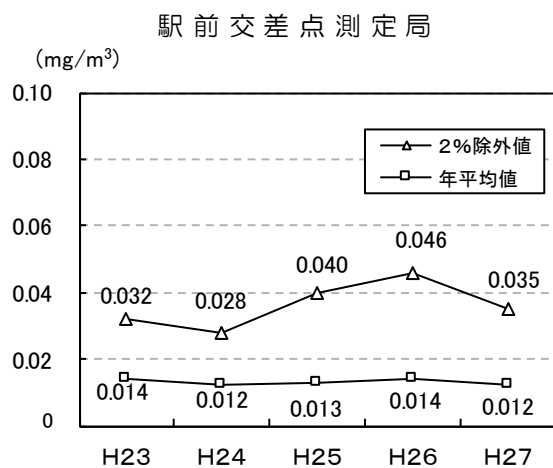
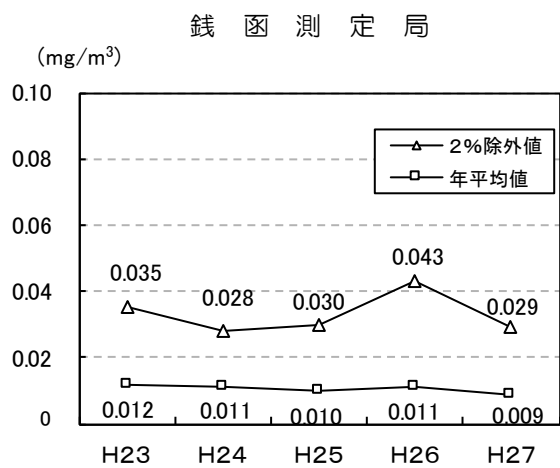
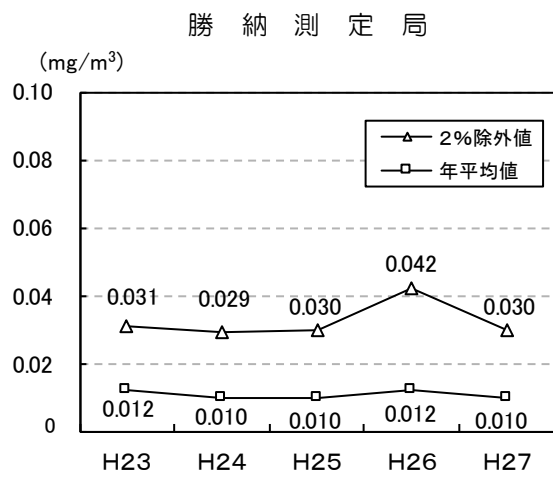
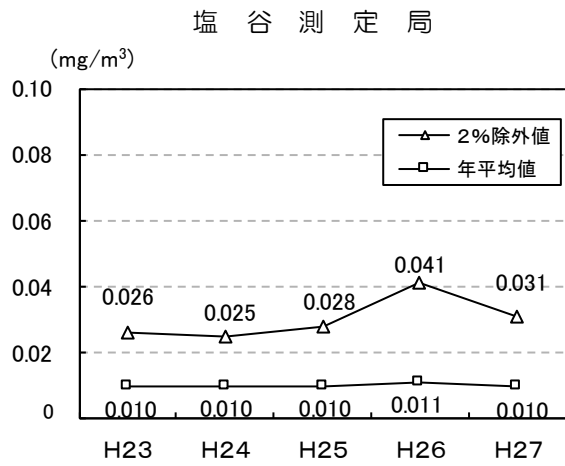
測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数とその割合		日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値の年間2%除外値	日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数
					時間	%	日	%					
塩谷	準工	366	8,766	0.010	0	0.0	0	0.0	0.105	0.044	0.031	○	0
勝納	1住	364	8,739	0.010	0	0.0	0	0.0	0.100	0.046	0.030	○	0
銭函	1住	363	8,702	0.009	0	0.0	0	0.0	0.086	0.050	0.029	○	0
駅前	商業	366	8,761	0.012	0	0.0	0	0.0	0.088	0.052	0.035	○	0

浮遊粒子状物質の経年変化

単位：mg/m³

測定局	用途地域	測定値	H23	H24	H25	H26	H27
塩谷	準工	2%除外値	0.026	0.025	0.028	0.041	0.031
		年平均値	0.010	0.010	0.010	0.011	0.010
勝納	1住	2%除外値	0.031	0.029	0.030	0.042	0.030
		年平均値	0.012	0.010	0.010	0.012	0.010
銭函	1住	2%除外値	0.035	0.028	0.030	0.043	0.029
		年平均値	0.012	0.011	0.010	0.011	0.009
駅前交差点	商業	2%除外値	0.032	0.028	0.040	0.046	0.035
		年平均値	0.014	0.012	0.013	0.014	0.012

※ 浮遊粒子状物質は環境基準を達成しています。



浮遊粒子状物質の経月変化（平成27年度）

